

6/27 大阪・横浜・博多・京都・東京で、「見守る者の部下」から託された 7枚、6/28 WITWIT古書店一周年記念スペシャルプレゼントとして 3枚、7/2 原宿事変にてオレンジ男から奪還した 7枚  
合計十七枚の短冊が揃う。この短冊に込められた西谷教授からのメッセージとは？

## 上が提供された短冊の歌、下が原文

WITWIT	一	曇りなき 月を見るにも 思うかな 明日は <b>雲間</b> の 上に照るやと 曇りなき 月を見るにも おもふかな 明日は <b>かばね</b> の 上に照るやと	吉村虎太郎
大阪	二	ほととぎす <b>空ゆく</b> 声は有明の 月よりほかに 聞くものぞなき ほととぎす <b>血に啼く</b> 聲は有明の 月よりほかに 聞くものぞなき	久坂玄瑞
京都	三	肝胆元雄大、奇機自湧出、飛潜有誰識、偏不恥 <b>虎</b> 名 肝胆元雄大、奇機自湧出、飛潜有誰識、偏不恥 <b>龍</b> 名	武市瑞山
博多	四	三千世界の 鳥を <b>泣かし</b> 主と朝寝が してみたい 三千世界の 鳥を <b>殺し</b> 主と朝寝が してみたい	高杉晋作
横浜	五	われもまた 花のもとにと おもひしに 若葉の <b>下の</b> きゆる命か われもまた 花のもとにと おもひしに 若葉の <b>かげに</b> きゆる命か	中島三郎助
東京	六	春の草 <b>七</b> 色までは 覚えけり 春の草 <b>五</b> 色までは 覚えけり	土方歳三
原宿事変	七	雪折れし 松に罪こそ なかりけり 裁にし <b>親が</b> むくいなるらん 雪折れし 松に罪こそ なかりけり 裁にし <b>人の</b> むくいなるらん	高杉晋作
WITWIT	八	鳴神の 持てる斧われ 得てしかも <b>赤</b> のまこ臣 討てし止まむ 鳴神の もてる斧われ えてしかも <b>醜</b> のまこ臣 うちてしやまむ	有馬新七
原宿事変	九	<b>舌</b> 論より 実を行なへ なまけ武士 国の大事を よそにみる馬鹿 <b>議</b> 論より 実を行なへ なまけ武士 国の大事を よそに見る馬鹿	河上弥一
東京	十	雨 <b>が</b> 日は いとど恋しく 思ひけり 我がよき友は いづこなるらめ 雨 <b>の</b> 日は いとど恋しく 思ひけり 我がよき友は いづこなるらめ	伊庭八郎
原宿事変	十一	古人の かつがつ物を いひ出る 御世をつぶやく 死眼人 古 <b>書</b> の かつがつ物を いひ出る 御世をつぶやく 死眼人	橘曙覧
東京	十二	なよ竹の 風にまかする 身ながらも たわまぬ節は <b>泣く</b> とこそきけ なよ竹の 風にまかする 身ながらも たわまぬ節は <b>あり</b> とこそきけ	西郷千重子
WITWIT	十三	つつみおく 真弓もやがて 引きしぼり <b>ふり</b> はなすべき 時は来にれり つつみおく 真弓もやがて 引きしぼり <b>うち</b> はなすべき 時は来にけり	中村半次郎
原宿事変	十四	武士の 道こそ多き 世の中に ただ 二筋の大和魂 武士の 道こそ多き 世の中に ただ <b>一</b> 筋のやまと魂	寺島忠三郎
原宿事変	十五	世の <b>情け</b> われをなんとも いはばいへ わがなすことは われのみぞしる 世の <b>人は</b> われをなんとも いはばいへ わがなすことは われのみぞしる	坂本竜馬
原宿事変	十六	大君の 御旗のもとに 死してこそ 人と生れし <b>有</b> 斐はありけれ 大君の 御旗のもとに 死してこそ 人と生れし <b>甲</b> 斐はありけれ	田中河内介
原宿事変	十七	優国十年 <b>北</b> 走西馳 成否在天 魂魄帰地 憂国十年 <b>東</b> 走西馳 成敗在天 魂魄帰地	平野国臣

## 書き換えられた箇所を抽出

札番	変化後	変化前
一	雲間	かばね
二	空ゆく	血に啼く
三	虎	龍
四	泣かし	殺し
五	下の	かげに
六	七	五
七	親が	人の
八	赤	醜
九	舌	議
十	が	の
十一	人	書
十二	泣く	あり

十三	ふり	うち
十四	二	一
十五	情け	人は
十六	有	甲
十七	北	東

変化前の文字を繋げると、

『 **かばね 血に啼く 龍殺し かげに 五人の 醜譚の書あり うち一人は甲東** 』 となる。

「甲東」とは、大久保利通の雅号 五人のうちの一人大久保利通

---

[ページTOPへ](#)